

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教員養成特別コース
／藤原 伸彦

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

現在続けている「Web映像データベースを利用した教員養成」の研究を継続して行っていく予定である。

2. 点検・評価

科研費研究として、教員養成特別コース院生P1の実施した模擬授業をブログ形式で蓄積することができ、学生や教員が参照できるようになった。
iPad等のモバイル機器でも閲覧できるように改善を加えたが、残念ながら未だ動作を安定させることができなかったため、引き続き研究を行っていく。
なお、2013年度は、教職大学院・村川教授を代表とする科研費研究に取り組む予定である。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

コースに関しては、2012年度入学生は定員10名を充足した。この背景には、教員免許を出している大学を訪問し希望者に対してコースの説明をすることを継続してきたことがある。本年度も、従来同様かそれ以上の大学を訪問していく。

専攻(コース含む)に関しては、2013年度に向けて専攻全体で定員充足のための対策をたてている。例えば、教員養成特別コースの受験資格を中学校免許を持たないものにまで拡大するなどである。2012年度は、これらの対策を具体的に計画する。

2. 点検・評価

院生確保のため、上記の大学をはじめとする6大学を訪問した。
専攻・コースとして、中学校免許しか持たない学生を受け入れる体制を整えた。
実際に2013年度は、3名の中学校教員希望者が入学することとなった。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①昨年度、教員養成特別コース院生に身につけさせたい力量を11項目リストアップした。本年度は、この授業での学びや実習に関する省察をこの項目と関連づけて行い、学生の実践力向上をはかる。
- ②昨年度から始まった学校教育実践コース2年生の授業が本年度から立ち上がる。3年次の教育実習および教員採用試験、さらには教職について必要となる力量の形成のため、特に体験的な活動を通して学べる時間をとりながら、授業を行っていく予定である。
- ③学生が自主的に実施している地域の子どもを対象とした活動(N*CAPなど)に対して、助言を行う。また、活動を計画する場所や設備を提供する。

2. 点検・評価

- ①学生からの回答が非常に多岐に渡っており有益なデータを得ることができたが、院生に伝えるのに適した形式で十分にまとめることができなかった。2013年度は、引き続きまとめを行い、院生指導に反映させていきたい。
- ②学校教育実践コース3年生の授業が実施できるよう、整えた。
- ③特に教員養成特別コースの院生が、子ども歩き遍路に参加することとなった。参加した院生から意見を聴取したので、次年度は何を学び得たかについて検討していく。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ①科研費の助成を受けて実施している「授業実践映像データベース」とモバイル機器の連動に関する研究を推進している。特に、昨年度は、モバイル機器を活用した学習を支援しやすい環境を整えており、mac serverを購入、その上で動作するpodcast producer 2を設定することが出来た。本年度は、このサーバを、学生指導を通して活用し、その有効性について検証する。
- ②昨年度、教員養成特別コース院生の、実習における授業実践の力量の向上を図るため、院生に身につけさせたい力量を11項目リストアップした。本年度は、この授業での学びや実習に関する省察をこの項目と関連づけて行うことで、効果的な教員養成が可能かを検証する。

2. 点検・評価

- ①サーバの設定を完了し、ブログ形式で院生の模擬授業をWeb上に蓄積することができるようになった。だが、I-1で述べたように、モバイル機器からの閲覧が安定して行うことができないという課題が残った。2013年度は、引き続き検討していきたい。
- ②II-1で述べたように、有益なデータを得ることができたが、未だ十分にまとめることができなかった。2013年度に引き続き検討していきたい。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

一昨年度終了した「四国の知GP」から継続して行われているe-Knowledgeコンソーシアム四国に関する業務に取り組む。

2. 点検・評価

e-Knowledgeコンソーシアム四国の企画委員として遠隔事業の運営等の業務に取り組んだ。
本年度は、さらに、「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」にも関わった。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

①附属幼稚園が文部科学省から指定を受けた幼小連携に関する研究開発の研究チームの一員として参画し、研究を推進する。具体的には、昨年度に引き続き、園児の「科学的思考」が遊びをとおしてどのように育って行くのかについての検討を行う。

②地域連携センターの業務の一環として、地域と連携しつつ以下の企画を実施する。

②-1 大塚国際美術館、鳴門市と連携し、アートワークショップ「N*CAP」を実施する。

②-2 「鳴門教育大学 教育と学校を考える会」の事業として、小中学生を対象とした子ども歩き遍路等の企画を実施する。

②-3 「鳴門教育大学 教育と学校を考える会」と連携して、本学学生および鳴門市・徳島県の現職教員対象の講演会を開催する。

②-4 鳴門市教育委員会、小中学校と連携し、鳴門市教育の情報化推進協議会の企画運営に関わる。

2. 点検・評価

①附属幼稚園との連携のもと、遊びにおける科学的思考について検討した。

②

1. N*CAPを年間4回実施した。

2. 子ども歩き遍路やサマーキャンプに加え、地域の小中学生を対象とした豊島・小豆島へのキャンプなどを企画・運営した。

3. 中間報告に示した通り、「まっくろくろすけ」代表の黒田氏を招待し、講演会を開催した。

4. 鳴門市教育委員会、小中学校と連携し、e-とくしま推進財団から助成を得てCMSを利用した学校間情報共有についての実践を行い、報告書としてまとめた。

参考URL:

e-とくしま推進財団・過去の調査・研究事業 助成一覧

http://www.e-tokushima.or.jp/promotion/education/research_history/

報告書

http://www.e-tokushima.or.jp/?action=common_download_main&upload_id=2211

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)